

共同運営部門：がん治療センター

一概要一

がん治療センターは、消化器外科、消化器内科、放射線科、放射線治療科、血液内科、肺腫瘍内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、泌尿器科、口腔外科、薬剤科、リハビリテーション科、理学療法チーム、栄養チーム、看護局(がん性疼痛看護認定看護師)、事務局から選出されたメンバーで構成された、がん治療に特化した共同運営部門のセンターである。当センターでは、様々な臓器のがん診療の状況を公開し、「大阪府指定がん拠点病院」としてがん診療の質的向上に努めている。

当センターの具体的な取り組みとして、最適ながん治療の提供をめざし多診療科を横断した各臓器の専門医師、看護師、病院事務など多職種専門家が一堂に会したカンファレンスを毎月開催している。さらに、外来化学療法室の運営、カンサーボードを適時開催し、複雑ながん症例の治療方針の検討・決定を行っている。また、薬物療法の新規レジメンの検討も行っている。がんに伴う疼痛コントロールを含め身体的・精神的苦痛を和らげる緩和ケアチームの活動およびがん看護外来の活動、在宅医療への移行など地域医療連携、がん患者・家族等に対する相談業務などを支援することも担っている。特に、緩和ケアチームでは、がんと診断されたときから緩和チームが介入することにより予後が改善するとのデータをもとに、緩和ケアチームの早期介入に心がけている(具体的な活動内容、件数については緩和ケアチームの年報報告を参照ください)。2016年度からは、がん化学療法看護認定看護師やがん性疼痛看護認定看護師さらに、緩和ケア認定看護師が、連日がん患者の訴えや疑問点等に相談・対応している。また、医師の病状説明や治療方針の説明に立ち会い、患者の治療への理解を深めるようサポートしている。5大がん(胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん)を中心としたがん登録事業や各種情報の収集・提供(がんサロン=らふの会を通して患者、ご家族の交流を図る)なども当センターの活動範囲となっている。

近年注目されている癌免疫療法、特に免疫チェックポイント阻害剤を応用したレジメンが多く実施されている。それに伴い免疫関連有害事象(irAE)の発症が増加しており、的確な対応が求められる。当センターでは『irAE対策チーム』をいち早く編成し、主治医の専門領域外の合併症に対し臓器横断的に対応できる体制を構築している。

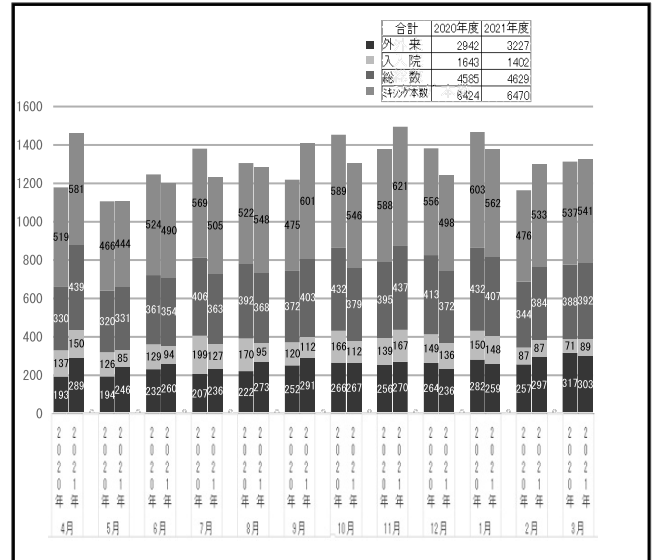
また、当院では多くのがん手術を実施している。近年、患者の高齢化が一層加速している現状を踏まえ、がん術前・後に早期よりリハビリテーションを導入するようにしている。このリハビリテーションの早期導入により、周術期の合併症の減少、早期社会復帰が可能となっている。今後も積極的にがんリハビリテーションを発展させていく方針である。

当院は大阪府より「大阪府がん診療拠点病院」に指定されており、地域住民の皆様にも最適・最新のがん診療を

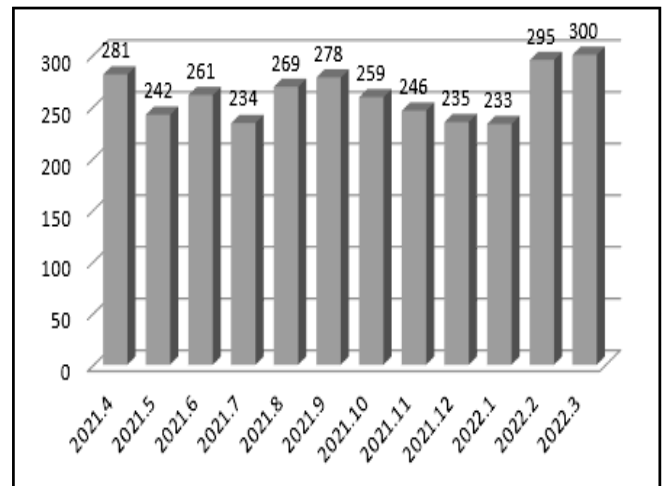
提供できるよう努力している。将来的には『国指定がん診療連携拠点病院』の取得に向け院内のがん診療の整備をすすめていく所存である。

一実績一

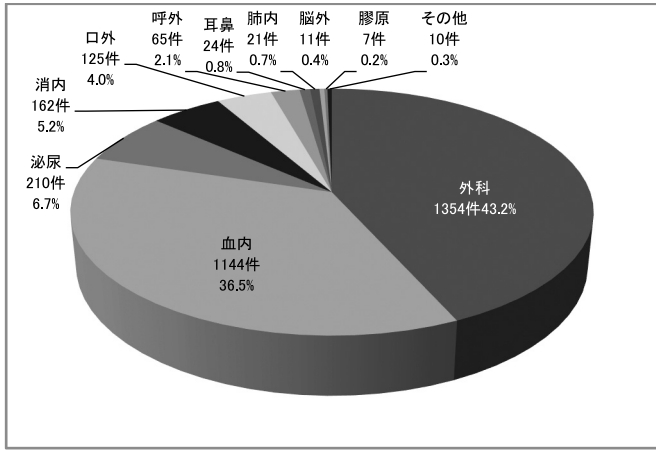
薬剤部からの報告



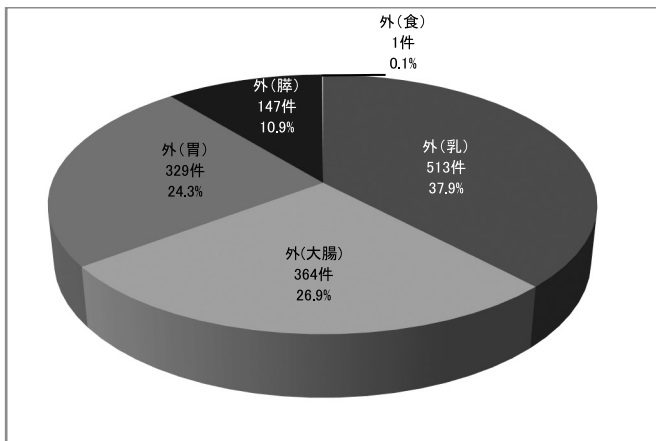
化学療法処方箋枚数(2020年度,2021年度比較)



外来化学療法件数



科別件数



外科疾患別件数



術前説明風景



外来化学療法室でのカンファレンスと実際の化療室内

委員構成

番号	部署	氏名
1	診療局長兼外科統括部長兼消化器外科部長兼がん治療センター長兼医療安全管理室長兼臨床研修センター副センター長	種村 匡弘
2	血液内科部長兼輸血部長	安見 正人
3	肺腫瘍内科部長	森山 あづさ
4	耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長	碓田 猛真
5	口腔外科部長	大前 政利
6	病理診断科部長	今北 正美
7	産婦人科部長兼周産期センター産科医療センター長	荻田 和秀
8	総合内科・感染症内科 膠原病内科部長兼リウマチセンター長	入交 重雄
9	消化器内科主任部長	大西 亨
10	呼吸器外科部長兼呼吸器センター長	大森 謙一
11	泌尿器科部長	射場 昭典
12	脳神経外科部長	出原 誠
13	外科医長	三宅 正和
14	外科医長	網島 亮
15	外来副看護師長	平尾 美紀
16	急性期ケア推進室兼8階山側病棟看護師 がん性疼痛看護認定看護師	杉野 幸恵
17	放射線部門 放射線技師科 部門長兼科長兼診療支援局長補佐兼 放射線部副部長	中前 光弘
18	薬剤科主幹	中川 直樹
19	薬剤科主査	西井 拓人
20	栄養管理科	林 美幸
21	がん相談支援センター	下村 恭子
22	医療マネジメント課 課長	平松 昌典
23	医療マネジメント課 診療情報管理士	原田 あゆ
24	事務局	坂田 祐美子

—今年度の成果と来年度の取り組み—

2021年度のキャンサーボード開催件数は2回であった。2022年度はより多くのキャンサーボードを開催したいと考えている。また、当センター主催の勉強会を企画・開催したいと考えており、具体的には、『免疫関連有害事象(irAE)』に関する勉強会を企画しているところである。

—来年度への抱負—

安全・安心のがん治療提供を目指すべく、診療科横断的な検討に貢献したい。また、栄養管理科より新しいメンバーが加入し病院収益増収にも貢献する。さらに、患者本人、ご家族からの貴重なご意見を積極的に吸い上げ、より快適ながん治療体制の構築に努めて参る所存である。